

# 令和2年度 入退院調整ルールづくり支援事業 入退院調整状況調査結果報告(病院調査)

## 目的

南和地域では、病院から在宅へのシームレスな移行にむけて、介護の必要な方が安心して入退院と在宅療養ができる環境づくりの一環として、平成31年2月に「入退院連携マニュアル」を作成、入退院連携ルールの運用が開始され、1年が経過した。

本調査は病院での入退院調整ルールの活用状況を把握し、前年度調査と比較することで、病院における入退院時のケアマネジャー等との連携による効果と課題を把握することを目的に実施する。

## 概要

### 方法

南和地域の4病院に対し、7月1日～31日の1か月の入院患者に対し、入退院調整ルール対象患者数を把握し、ルールに基づき、入院の連絡、入院時の情報提供、退院連絡等の実施状況を8月10日時点で調査。各病棟で実数把握し、地域医療連携室等で集計。

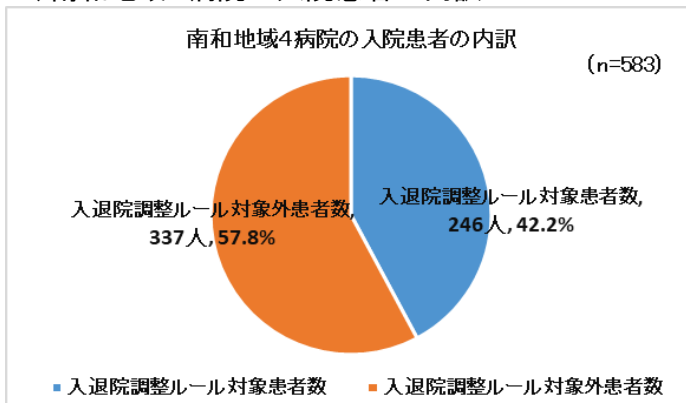
項目	内容
調査期間	令和2年7月1日～7月31日の1か月間
調査票回収期間	令和2年8月19日～8月31日
対象医療機関	南和地域4病院 南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター 南和広域医療企業団 五條病院 南和広域医療企業団 吉野病院 医療法人 弘仁会 南和病院 計 4病院
調査票回答者	病棟看護師、地域医療連携室看護師等
回答病院数 (回収率)	南和地域4病院(100%)

## 結果

【令和2年7月1日～7月31日の間に入院した患者について 8月10日時点の状況】

### 1. 入院患者の状況(7月の1か月間)

#### 1) 南和地域4病院の入院患者の内訳

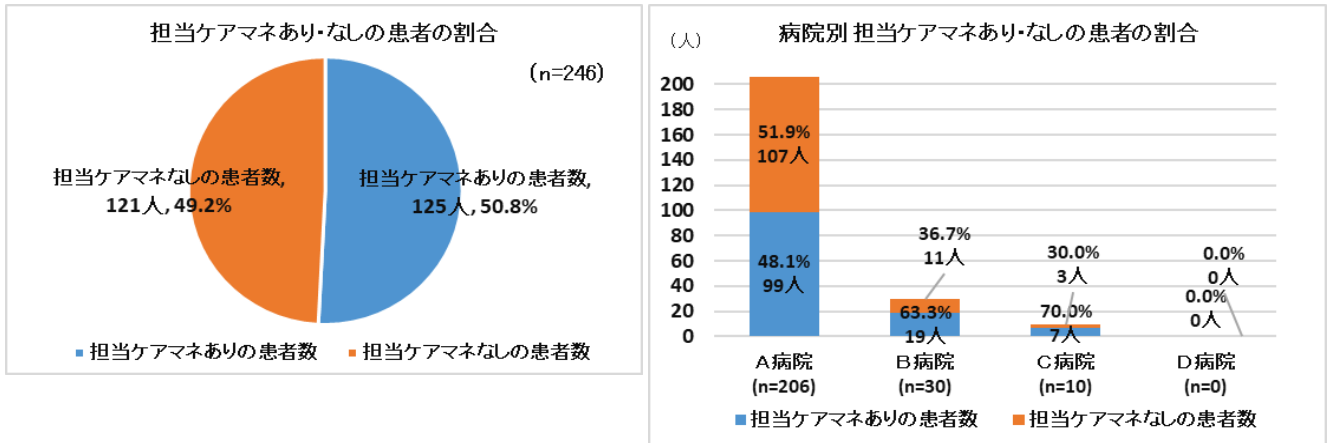


病院名	入院患者数 (7月) (人)	入退院調整 ルール対象 患者数 (人)	入退院調整 ルール対象 患者割合
A病院	480	206	42.9%
B病院	46	30	65.2%
C病院	40	10	25.0%
D病院	17	0	0.0%
計	583	246	42.2%

1ヶ月間の入院患者のうち、入退院調整ルールの対象患者は246人(42.2%)であった。

※12月調査: 入退院調整ルールの対象患者 225人(34.2%)

## 2) 担当ケアマネあり・なしの患者の割合について

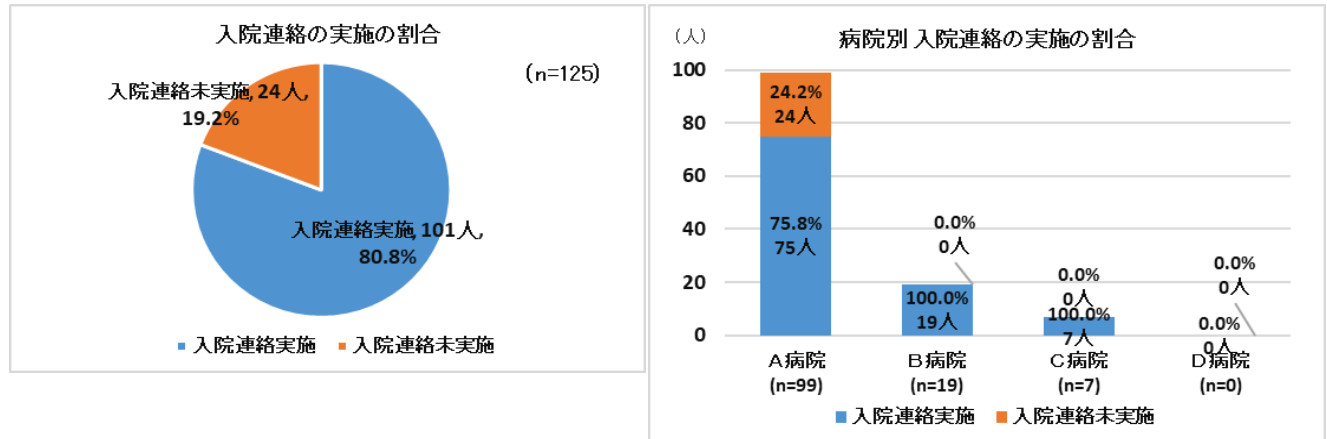


入退院調整ルールの対象患者 246人中、担当ケアマネありの患者が125人(50.8%)、担当ケアマネなしの患者が121人(49.2%)であった。

※12月調査: 入退院調整ルールの対象患者225人中、担当ケアマネありの患者155人(68.9%)、担当ケアマネなしの患者70人(31.1%)

## 2. 担当ケアマネありの状況

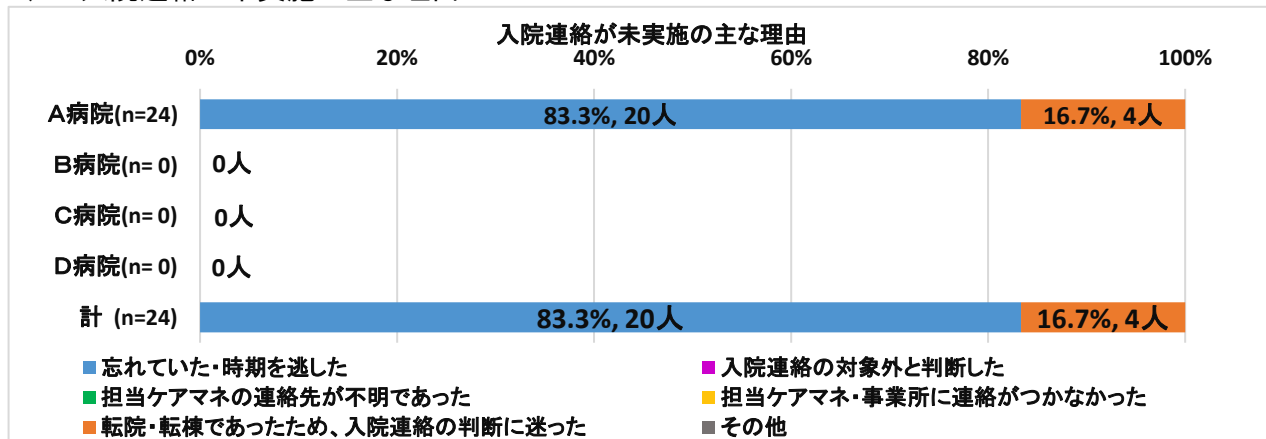
### 1)-1 入院連絡の実施について (病院→ケアマネ)



病院から担当ケアマネへの入院連絡は125人中101人(80.8%)が実施できた。

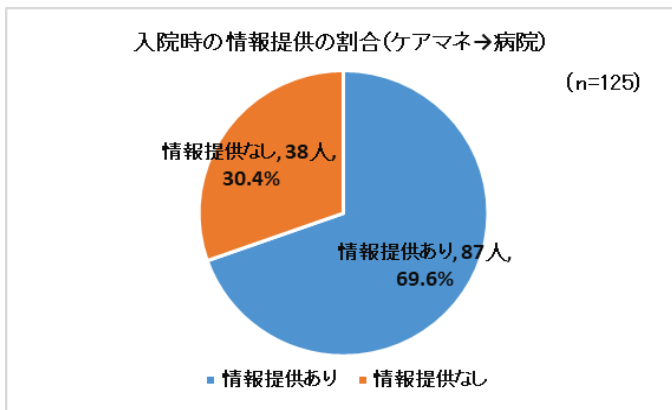
※12月調査: 155人中142人(91.6%)が実施できた。

### 1)-2 入院連絡が未実施の主な理由



入院連絡が未実施の主な理由は、「忘れていた・時期を逃した」が20人(83.3%)と最も多く、次いで「転院・転棟であったため、入院連絡の判断に迷った」が4人(16.7%)であった。

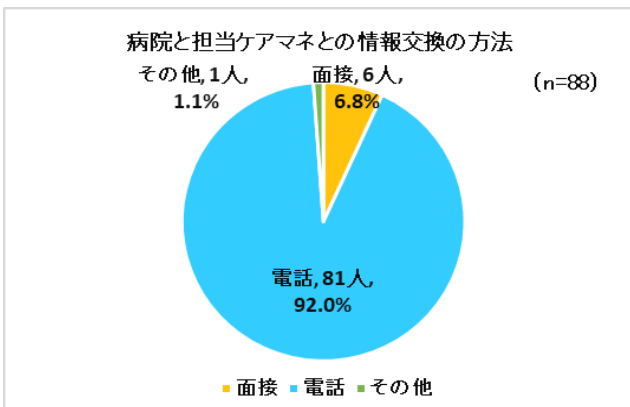
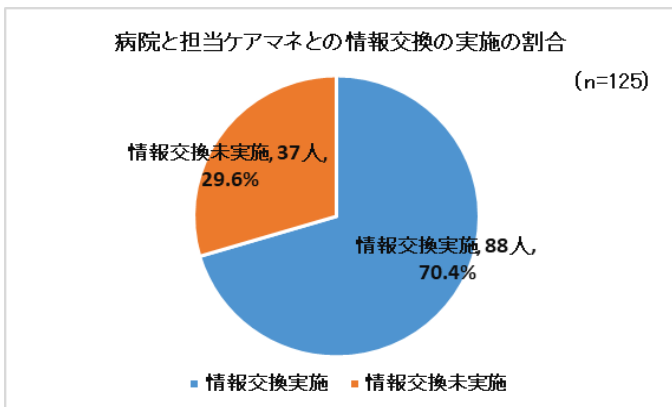
## 2) 入院時の情報提供について (ケアマネ→病院)



入院時のケアマネから病院への情報提供書の提供は125人中 87人(69.6%)であった。

※12月調査：情報提供書の提供は155人中 108人(69.7%)であった。

## 3) 病院と担当ケアマネとの情報交換の実施と、情報交換の方法について



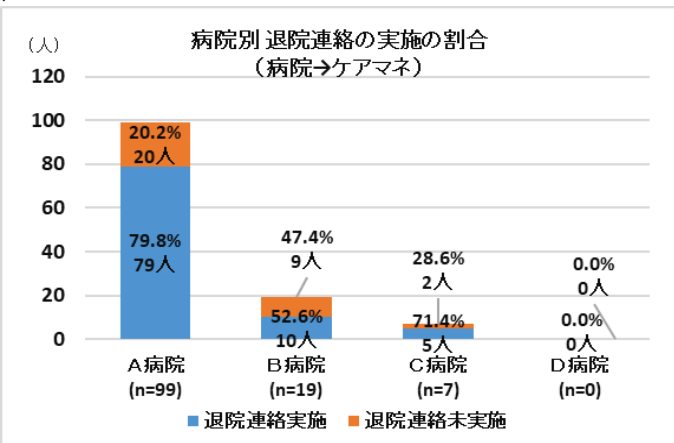
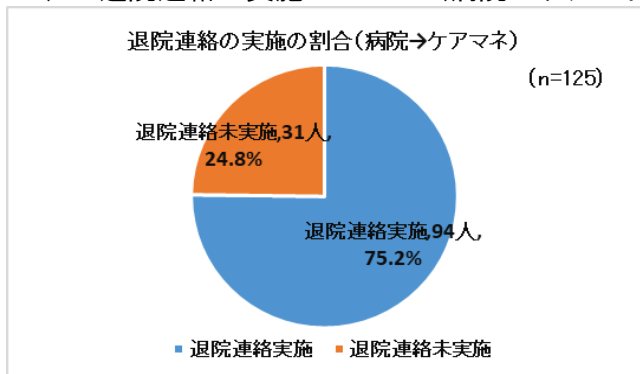
病院と担当ケアマネとの情報交換は125人中 88人(70.4%)が実施できた。

また、病院と担当ケアマネとの情報交換の方法については、「電話」が81人(92.0%)で最も多く、次いで「面接」6人(6.8%)、「その他」1人(1.1%)であった。

※12月調査：155人中 120人(77.4%)が実施できた。

また、情報交換の方法については「電話」68件(56.7%)、「その他」33件(27.5%)、「面談」19件(15.8%)であった。

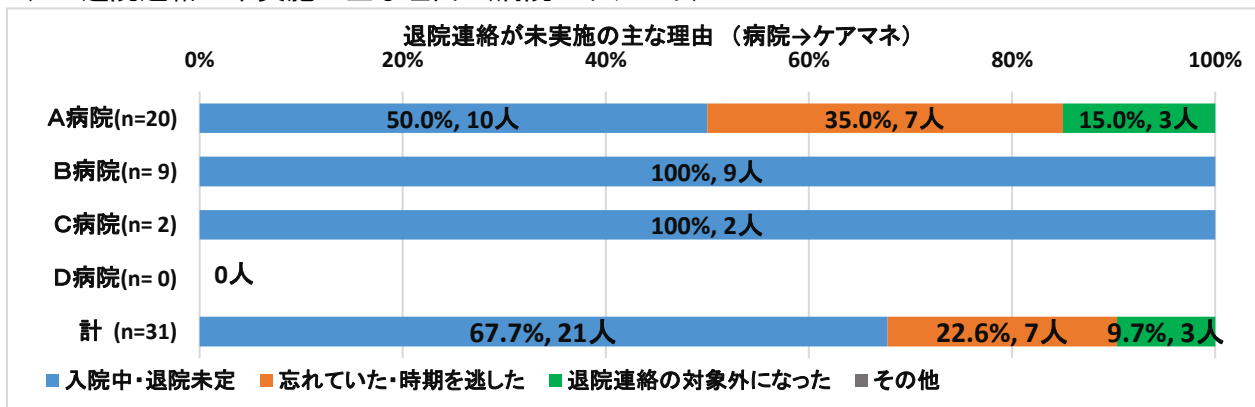
## 4)-1 退院連絡の実施について (病院→ケアマネ)



病院から担当ケアマネへの退院連絡は125人中 94人(75.2%)が実施できた。

※12月調査：155人中 54人(34.8%)が実施できた。

4)-2 退院連絡が未実施の主な理由（病院→ケアマネ）

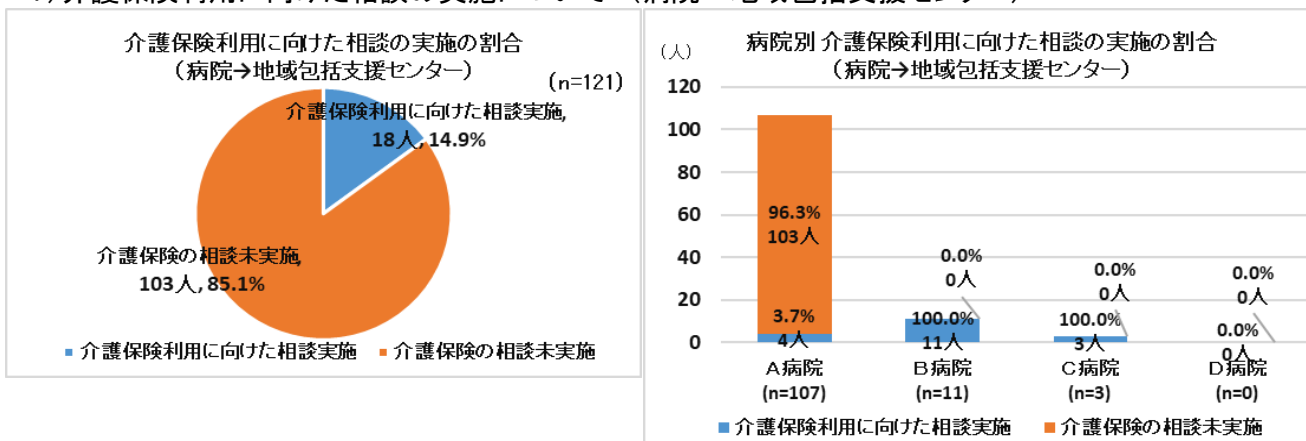


退院連絡が未実施な主な理由には、「入院中・退院未定」が21人(67.7%)と全体の割合の半数以上で最も多く、次いで「忘れていた・時期を逃した」が7人(22.6%)、「退院連絡の対象外になった」3人(9.7%)であった。

※12月調査:「入院中・退院未定」が64人(63.3%)と全体の割合の半数以上で最も多く、次いで「その他」が21人(20.8%)、「退院連絡の対象外になった」13人(12.9%)、「忘れていた・時期を逃した」3人(3.0%)であった。

3. 担当ケアマネなしの状況

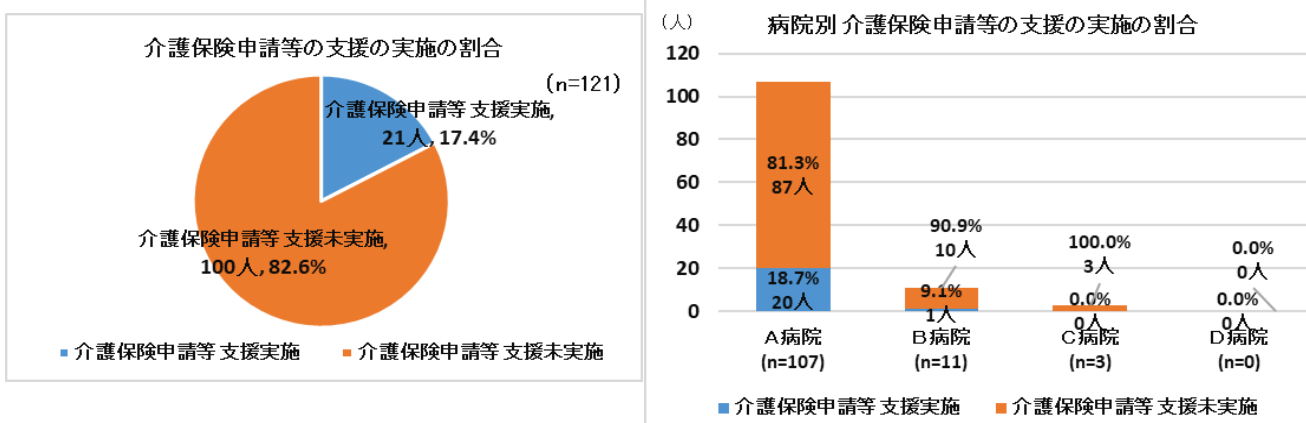
1) 介護保険利用に向けた相談の実施について（病院→地域包括支援センター）



病院から地域包括支援センターへの介護保険利用に向けた相談は121人中18人(14.9%)が実施できた。

※12月調査:70人中29人(41.4%)が実施できた。

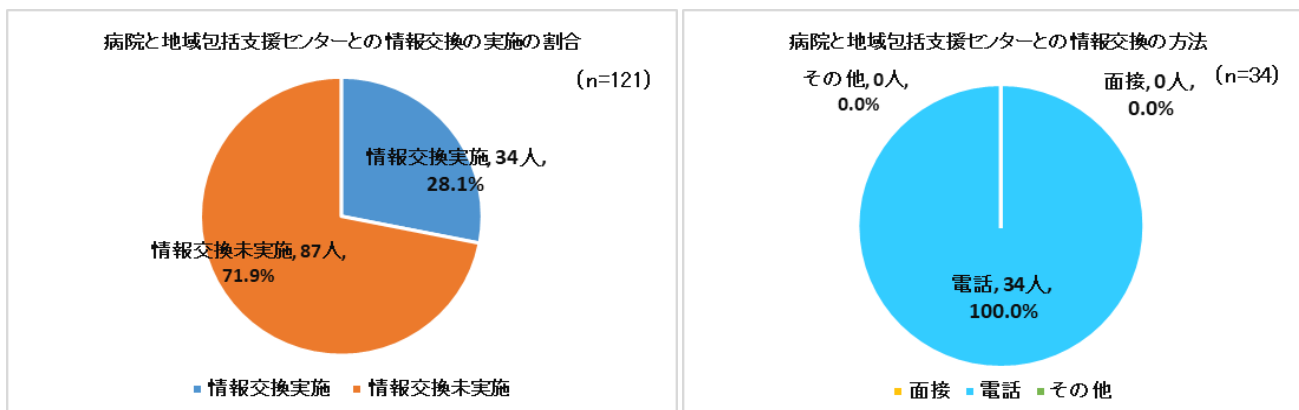
2) 介護保険申請等の支援の実施について



介護保険申請等の支援は121人中21人(17.4%)が実施できた。

※12月調査:70人中23人(32.9%)が実施できた。

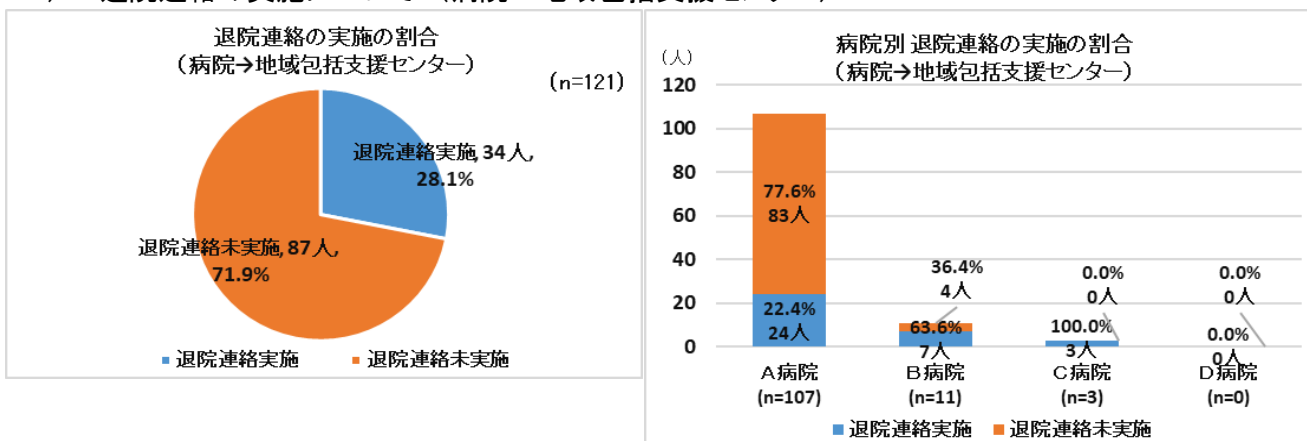
### 3) 病院と地域包括支援センターとの情報交換の実施と、情報交換の方法について



病院と地域包括支援センターとの情報交換は121人中34人(28.1%)が実施できた。  
また、病院と地域包括支援センターとの情報交換の方法については、34人全て(100%)が「電話」であった。

※12月調査:70人中37人(52.9%)が実施できた。  
また、情報交換の方法については「電話」34件(91.9%)、「面談」2件(5.4%)、「その他」1件(2.7%)であった。

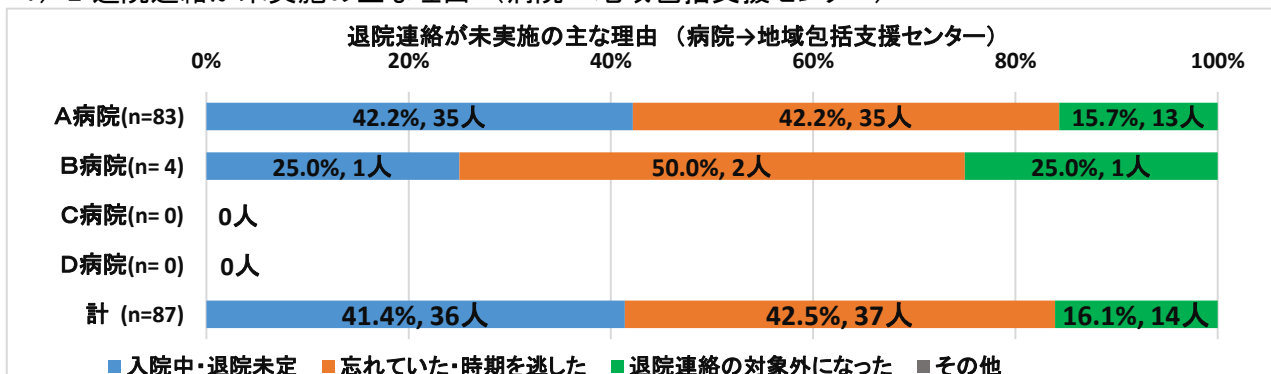
### 4)-1 退院連絡の実施について (病院→地域包括支援センター)



病院から地域包括支援センターへの退院連絡は121人中34人(28.1%)が実施できた。

※12月調査:70人中18人(25.7%)が実施できた。

### 4)-2 退院連絡が未実施の主な理由 (病院→地域包括支援センター)



退院連絡が未実施な主な理由には、「忘れていた・時期を逃した」が37人(42.5%)と最も多く、次いで「入院中・退院未定」が36人(41.4%)、「退院連絡の対象外になった」14人(16.1%)であった。

※12月調査:「入院中・退院未定」が36人(69.2%)と最も多く、次いで「退院連絡の対象外になった」が13人(25.0%)、「忘れていた・時期を逃した」2人(3.9%)、「その他」1人(1.9%)であった。

## 4. 自由記述

### 4-1.

今回の新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、入退院調整等で困ったことについて、ご記入ください。

#### ①病棟の移動が多い

新型コロナウイルス感染症患者の病床確保のため、外科・内科と概ね決まっていた病床が維持できなくなり、入院後病棟を移動することが頻回にあった。

#### ②退院後のサービス調整困難

- ・施設への入所調整時、新型コロナウイルス感染の発症リスクがなくなる2週間は、五條や吉野等で受け入れ、入所までの期間を開けてほしいとの申し出があったため、待機が長期化し、入院期間が延びた。(入所時個室隔離) また、患者が個室入所を拒否し退院先を変更する等、退院調整に時間がかかった。
- ・デイサービスやデイケアを利用する場合、退院後すぐに利用できず、自宅待機後の利用となり、調整が困難であった。急遽、ショートステイの利用できる施設を探したり、他のサービス利用を調整しないとけなかつた。
- ・転院時に発熱がある時、対応に困った。

#### ③面会禁止のため情報共有が困難

- ・面会禁止の措置をとっているため、家人からの情報収集、情報共有が進みにくいことがある。
- ・面会制限や禁止(原則)があったので、施設との調整時に必要な面談やカンファレンスの回数を少なくしたり、電話のみで行うことが多くなり、細かい伝達が出来にくかった。また電話でのやり取りは病棟にとっては繁雑になることがあった。
- ・施設の方やケアマネジャーとの面談を行ってよいかどうか当初は混乱があった。

#### ④情報収集が困難

- ・面会制限により家族の面会が減り情報収集ができる機会口が減った。直後であっても話す時間が短い。
- ・入院途中で家族の意向を直接確認するのが難しい。
- ・施設の方の面談や見学などの調整が難しい。
- ・退院前訪問に行けないので家屋状況がわかりにくかった。

#### ⑤カンファレンスの開催が困難

- ・ケアマネが必要な方がカンファレンスに参加できず、電話、書類の対応で退院調整が難しい。
- ・ケアマネと退院前カンファレンスができずやりとりがスムーズに行かない(不在であることもある)。
- ・施設によってはカンファレンスがないのでサマリのみのみで伝わっているのか、施設入所後困り事はないのか不安。

### 4-2.

①の困ったことを受けて、行っている対策、配慮していることについてご記入ください。

#### ①入院後病棟を移動することが頻回にあることについては、対策はとれず状況は続いています。

#### ②最近はそのような申し出はなくなっていると思います。

- ・個室で対応している。

#### ③電話での調整を行っている。

- ・地域医療連携室では、電話での調整が多くなっています。

#### ④退院支援チェックリストを用いて情報の伝達不足がないようにした。

- ・必要な面談は行うことが周知され、実施できています。
- ・感染予防対策として家族面談時は時間調整を行い、密にならないように部屋の換気と距離をとり座ってもらった。
- ・面談は密にならないように病棟以外の部屋で行った。

#### ④情報収集の工夫

- ・電話で密に連絡を取るようにした。
- ・地域連携室担当者や連携をとるようにしている。
- ・施設・患者・家族・地域連携室担当者と入院早期から退院を想定し、介入した。ケアマネや施設担当者や密な連絡をとる。
- ・入院受け入れをした看護師が受け持ち看護師になった。
- ・入院時に可能な限り情報収集を行った。(介護に対する思い、退院後の生活状況、家屋環境、家庭環境等。必要時は家屋調査の用紙を入院時に渡す)。入院時に退院時のゴール目安を相談し、方針を共有した。
- ・受け持ち看護師が不在時に他のスタッフが情報を収集できるよう伝達し、チーム内で連携し情報収集を行った。

#### ⑤情報用紙の活用

- ・看護サマリーなどに詳細に記入し、情報がしっかり伝わるようにした。



### 4-3. 今回の新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえて、平時から準備しておくべきことについてご記入ください

- ①対面にこだわらない情報交換のツールを確保しておくことも必要だと思いました。□  
感染対策の基本についても、医療介護地域で情報を共有しておくことが大切だと感じます。
- ②情報収集の工夫
  - ・入院時の情報収集を充実させる。□
  - ・地域連携室担当者に相談し、連携した支援を行う。
  - ・受け持ち看護師だけでなく、入院時よりチームメンバーが意図的に情報収集を行い、退院支援を行う。
- ③看護サマリーの工夫
  - ・相談時に情報を早期に提供できるよう、看護サマリーを前もって作成しておく。
  - ・カンファレンスができないため相手先が欲しい情報を看護サマリーに記載する。
- ④院外担当者との連携の充実
  - ・ケアマネと普段からこまめに連絡を取るようにし、連携した関わりを持つ。
  - ・入院連絡以外にもケアマネや施設担当者と連絡を取り、情報を共有しておく。
- ⑤感染予防
  - ・自己と家族の健康管理を心がけ職場や患者さんに感染させないように日常生活に気をつける。
- ⑥感染症については外からの持ち込みを完全に絶つことは困難であり、非常時に備えて日頃より他施設とのコミュニケーションを図っておく必要がある。

## 5. まとめ

- ・1ヶ月の入院患者のうち入退院調整ルールの対象患者は42.2%であった。
- ・担当ケアマネありにおいては、入院連絡の実施が80.8%、病院と担当ケアマネの情報交換が70.4%に対し、病院から地域包括支援センターへの介護保険利用に向けた相談は14.9%、情報交換の実施は28.1%であった。
- ・担当ケアマネありにおいては、退院連絡の実施は75.2%であり、退院連絡が未実施の主な理由は、「入院中・退院未定」が67.7%と最も多く、次いで「忘れていた・時期を逃した」が22.6%であった。担当ケアマネなしにおいては、退院連絡の実施は28.1%であり、退院連絡が未実施の主な理由は、「忘れていた・時期を逃した」が42.5%と最も多く、次いで「入院中・退院未定」が41.4%であった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、カンファレンスや面会ができないため、情報収集・共有が困難と感じる病院が多かった。また、退院後のサービス利用にも制限があることから、退院調整が困難となっていた。

担当ケアマネがいる患者の 入退院調整状況	令和元年 7月調査	令和元年 12月調査	令和2年 7月調査
病院からケアマネジャーへの 入院連絡実施	122人 92.4%	142人 91.6%	101人 80.8%
病院からケアマネジャーへの 退院連絡実施	58人 43.9%	54人 34.8%	94人 75.2%

担当ケアマネがない患者の 入退院調整状況	令和元年 7月調査	令和元年 12月調査	令和2年 7月調査
病院から地域包括支援センターへの 介護保険利用に向けた相談の実施	48人 52.7%	29人 41.4%	18人 14.9%
病院から地域包括支援センターへの 退院連絡実施	19人 20.9%	18人 25.7%	34人 28.1%